

ひなばと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 18

平成28年5月13日

子どもの日記念シンポジウム・2016開催

平成28年4月24日（日）に広島市青少年センターで、子どもの日記念シンポジウムが開催されました。ピピオ子どもセンターの開設は、このシンポジウムが切っ掛けであったこともあり、ピピオ開設5周年を記念し、子どもシェルターを題材にしたシンポジウムとなりました。

第1部は、高校生と弁護士らで行う演劇で、「はばたけ！ピピオパート7～ひなばとの星空～」と題して行われました。「ピピオの家」に入居を希望して入居してきた少女が、事情を話すこともなく、ピピオの家のルールも無視したり、他の入居者の子どもやスタッフともトラブルを起こす中、この少女の対応についてピピオ内で意見の対立が生じるなどします。そんな中、子ども担当弁護士が、偶然、ピピオの家を飛び出した少女と出くわし、少女が抱えていた葛藤を聞き、少女がスタッフらとも心を開くようになるというストーリーでした。少女役を務めた高校生、その少女に傷つけられても何とか支えようとするスタッフを演じた対馬弁護士、少女の子ども担当弁護士として、最後に少女の葛藤を受け止め守る姿を演じた金井弁護士、その他にも関わる人物を演じた役者の皆さんの好演により、何度も涙を流し、何度も

笑ってしまう、そんな素晴らしい演劇でした。また、劇中では、困難なケースによるシェルターの危機や、出先の問題など、現実でも発生している問題点を分かりやすく提示してくれました。

第2部は、高校生によるフリートークという形で、演劇に携わってくれた高校生10名に、劇の内容に基づいて生の意見を聞いていくというものでした。先ほどの劇の少女をピピオの家から追い出すべきだったかという質問には、全員が、追い出すべきではないという意見を出し、表面上、色々な問題を起こしたり、理解できないような行為をすることにも、もしかしたら理由があるのかもしれないということを高校生たちが気がついてくれたようで、嬉しかったです。また、この演劇を通じて、弁護士を目指したい、児童福祉などに関わる仕事をしたいという気持ちを持ってくれた高校生もいました。

来年のシンポジウムにも、是非、1人でも多くの方に参加してもらい、子どものことを考えるきっかけになればと思いますので、お知り合いの方などをお誘いの上、ご参加ください。

弁護士 砂本啓介



立夏のみぎり、会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

お陰をもちまして、ピピオ子どもセンターは平成 23 年 4 月 11 日に「ピピオの家」を誕生させ、今年で 5 年を迎えました。この間、親からの虐待などの理由から居場所を失い、生活ができなくなった多くの子ども達を、巣立ちさせることができました。

このようなことが継続してできましたのは、ひとえに会員の皆様の温かいご支援とスタッフの献身的なご尽力のたまものであり、こころより感謝申し上げます。

さて、潜在待機児童が 6 万人となったなど、子どもの課題は待機児童問題に集中し、国は、国の基準をうわまわる自治体に児童の受け入れの要請、小規模保育の定員の拡大等の緊急対策をあきらかにしています。待機児童の約 85%が 0 歳児、1 歳児、2 歳児です。2014 年の出生数は約 100 万人、1973 年の出生数は約 209 万人、2015 年の保育所利用数は約 237 万人、1995 年は約 160 万人です。出生数の減少にもかかわらず保育所利用数は増加をしています。家庭で育児する親への所得保障や職業復帰保障等を実施し、0 歳児、1 歳児、2 歳児の育児を安心して家庭でできる子育て支援策も考える必要があると思います。

赤ちゃんは授乳やオシメ交換など親との親密な交流を通して愛情が芽生え、人間としての基本的な信頼関係を体験し、この体験を基礎に一生涯、人や自分を信じることができるようになります。虐待、いじめ、貧困等の環境のなかで育ったピピオの子ども達は、不安、怒り、自尊の欠如、罪悪感等を体験し、乳幼児期に信頼関係の形成が不十分であったり、弱かったりしています。思春期や青年期を迎え、新たな信頼関係をつくり、人との関係の中で「癒し」が達成されて、はじめて前に進むことができます。

ピピオ子どもセンターでは、子ども達が自分自身を理解し、就職等現実の課題を克服していく過程で、スタッフとの信頼関係を築き、子ども達が再出発できるよう環境を調整しています。その結果、子ども達が自分の力で、幸福をつかみ、社会に貢献できる人材となることがピピオ子どもセンターの使命だと思っています。会員の皆様には、このような活動を行っているピピオ子どもセンターに、今後とも、ご支援をいただきたくお願い申し上げます。

ピピオ子どもセンター理事 磯辺省三

第 7 回ボランティアスタッフ養成講座のご案内

本年 6 月 8 日から 7 月 27 日にかけて第 7 回ボランティアスタッフ養成講座を開催します。

当センターでは、子どもシェルター「ピピオの家」と自立援助ホーム「はばたけ荘」の運営にあたり、多数のボランティアスタッフの皆さまにお手伝いいただきしており、本年度も新たなボランティアスタッフを募集したいと考えています。ボランティアスタッフに応募される方にはこの養成講座（全 8 講）を受講していただくことといたしますので、別紙の募集案内をご覧ください。

また、この講座は、公益財団法人マツダ財団との共同事業であるスタートラインプロジェクトの一環として開催しており、現在ボランティアスタッフや子ども担当弁護士として関わっている方のスキルアップも目的とし、さらには広島近隣の大学等で福祉・教育・心理等を学ぶ学生の方など、子どもの問題に関心のある方にも参加を呼びかけています。

多くの方のご参加を希望しておりますので、よろしくごお願いいたします。

スタッフ通信

「ピピオの家」スタッフのOです。

困難な状況で居場所がなくなった女の子が入ってくる「ピピオの家」では、まずは安心してゆっくりしてもらえ家庭的な雰囲気大切にしています。

実際に「ピピオの家」を初めて見た女の子たちの第一声の多くは、「ほんとに普通の家じゃね。」というもの。建物とはかく、家庭的というの、わかったようなわからないような……。なにしろ子どもたちにとっても、スタッフにとっても、ボランティアさんにとっても家庭はそれぞれ違っているのですから。

それが一番現れるのは、やはり食事でしょうか。味付けはもちろん、食材の切り方、何をかけるか、たこ焼きは食事かおやつか等々違いがいっぱい出てきます。また、自分のママの作り方、おばあちゃんの懐かしい味、お父さんが唯一作れる料理など、それぞれ大事にしている「家のごはん」があります。

部屋の好みも色々です。自分の部屋が殺風景で寂しいからと、花や観葉植物を飾り、名前まで付けてお世話していた子もいます。その一方、植物が室内にあるのを嫌がる子もいて、スタッフが季節感を出そうとおしゃれに飾った食卓の上の花を、そっと玄関に移動したこともあります。

片付け、掃除、洗濯、インテリア、何をとっても、自分の好み、家々のやり方というものが出てきます。一緒に生活するうちに、それぞれが当た

り前だと思っていたり、大切にしていることの違いが色々見えてきて、面白がったり、教え合ったり、ちょっともめたり、譲り合ったり。いろんな家庭からの持ち寄り、その時々で微妙に違う「ピピオの家」の家庭的雰囲気ができあがっていきます。

中には、これまで落ち着いた家庭生活をほとんど送れなかった子もいます。そういう子にとっては、何気ないおしゃべり、テレビを観て笑い合う、その日に食べたいものを作ってもらおうというような日常なことが新鮮だったり、固まっていた気持ちがほぐれていくことにつながったりもするようです。また、将来の自分の新しい家庭作りの際に、「ピピオの家」での家庭的経験が活かされることもあるでしょう。

そして、お互いなじんできたと思ったら、遅かれ早かれ旅立ちの時がやってきます。「ピピオの家」での生活を踏み台にして、不安は抱えつつも、なんとか笑顔で一歩を踏み出していく子どもたちに、陰ながらエールを送り続けたいです。

それぞれの人生の中で、「ピピオの家」で過ごすのはほんの僅かなひと時ですが、あたたかく明るい家庭的雰囲気を、みんなで一緒に作っていきたくと思っています。

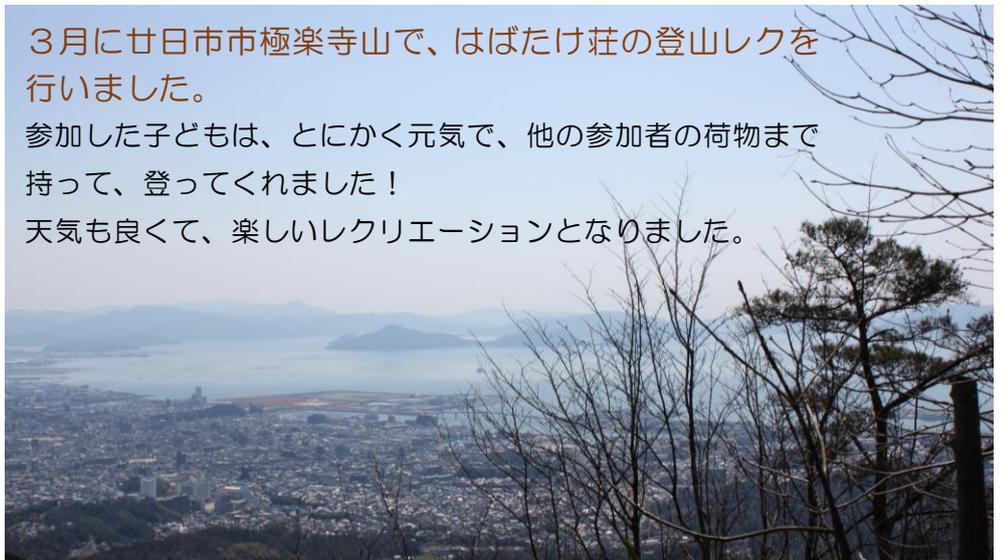
(余談・・・自宅と「ピピオの家」両方の冷蔵庫。どっちに何が合ったか度々勘違いして焦っています。スタッフになって4年余り。どっちも我が家!?)



3月に廿日市市極楽寺山で、はばたけ荘の登山レクを行いました。

参加した子どもは、とにかく元気で、他の参加者の荷物まで持って、登ってくれました!

天気も良くて、楽しいレクリエーションとなりました。



～共同募金・社会解決プロジェクトへのご協力ありがとうございました～

ひなばと vol.17号でご案内しました平成28年1月から3月末日までに行われた広島県共同募金会による社会解決プロジェクトに対し、多数の方々にご協力頂きました。実に125件もの方々(個人・団体・有志等)から募金を頂戴し、期間中の合計募金額は、103万6688円となり、広島県共同募金会を通じて、133万6688円の交付金を頂く予定になりました。当センターとして、募金額の合計が100万円を超えることは、昨年につき2年連

続の快挙であり、募金件数も年を追うごとに増加しております。ピピオの活動への期待を大いに感じる結果となりました。

この募金は、「ピピオの家」、「はばたけ荘」に入居する子どもたちの自立に向け、有効に使わせていただきます。

この場をお借りして、御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ピピオ掲示板

お詫びです

1月24日に開催した「ピピオ子どもセンター設立5周年記念シンポジウム」の内容を「ひなばと」18号でご報告することとしていましたが、印刷(別刷り)の準備が遅れ、お送りすることができません。後日、別便でお送りいたします。ご容赦ください。

生活用品を募集しています

ピピオ子どもセンターでは、「ピピオの家」・「はばたけ荘」から巣立つ子どもたちへの生活用品(家具家電含む)等の提供を行っています。皆様のお手元にあります、使われていない生活用品等をご提供頂ければ幸いです。

寄付等のご協力ありがとうございました

堀田様、東様、新屋様、横田様、山田様、岡崎様、木村様、井上様、コストコホールセールジャパン株式会社様、奥様、梶山様、飴野様など多数の方々から寄付(金銭、商品券、生活用品など)を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

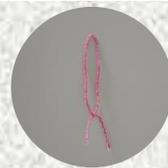
この場で御礼申し上げます。

○平成28年3月末日時点の会員数○

正会員 個人:95名 団体:6団体
賛助会員 個人:63名 団体:2団体

事務局雑記

○ピピオの家では、手芸をして時間を過ごす子がよくいます。事務の用事で訪問した時、「かばんに着けるといいよ～」と、ピンク色のミサンガをつくってくれた子がいました。…「ちょっと恥ずかしいので…」と、事務所に飾ることにしました。



発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局

〒730-0014 広島市中区上機町2番36号 S・ウィングビル505号

TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659

ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>